



つくる・まじわる・ひろげる 文化芸術センター・グランドオープン



●文化芸術を通じて人々が出会う場所―豊中市立文化芸術センター

実は北摂最大とも言えるこれらのステージで、式典講演会、著名なアーティスト、落語家、ミュージカル、ダンスやオーケストラをはじめ市民が心待ちにしていたさまざまな「出会い」が成就した。市民団体、個人にもモチロ活躍発表の場は提供される。

その他、地下階には練習室、スタジオ、楽屋が、階には展示室、多目的室が、そして、階には山の小径を思わせる回廊に面したミーティングルームに、静寂と前衛的な雰囲気が出会う和室やラウンジが配されさまざまなシーンに利用できる。さらに三階屋上はガラスになっていて、遠望も楽しめる。さらには真やかなイオンが回っていて、色々な緑も植えられていて、全館がさながら森にも思える。前号でも紹介した通り、センターは指定管理者制で運営されており、なじみ深いアクア文化ホールはセンターの中ホールとして位置づけられることになり、外観とあわせて杜の翼を担う格好となった。一方、庄内にある豊中市立ロイズ文化ホールもセンターと一体で運営がなされることになった。

グランドオープンから五ヶ月余り経った六月七日、総合館長兼芸術プロデューサーの別倉祥子氏に「挨拶を済ませたのち、副館長で広報・事業課長を務める西村朋美氏と同僚広瀬チーフプロデューサーである降旗健人氏を、千葉、大久保、天羽の三名が訪ねた。西村氏は、早い段階から開設準備に携わって来られ、昨年の曾根サマーフェスティバルでも着いさ中、夢の樹ひろばと夢の樹とおりが交わるあたりをブラスで汗を流されていたので、記憶に残されている方がいらつらつかもならない。降旗氏は広報と地域の顔つきを足らなくして行っておいて、今回取材のタイミングでもお世話になった。

お二人は異口同音に、文化芸術に触れてほしい、またそう言うことで人が出会い、更に新しい文化芸術の創出につながってほしいと抱負を込められ、新しい文化芸術の創出について話を続けられた。市民オーケストラ、ホールなどが体化した「オール豊中」、市民の協力を得てつくり上げる「メイドイン豊中」、豊中にしかない、豊中でしか出会うことのできなない「プレミアムプログラム」が、それ、日本センター交響楽団の演奏でプロの音楽家と市民合唱団のコラボで十二月に「豊中市民第九」を行うといった企画が挙げられる。



●客席数1344席、2層構造からは想像できないほどの高い音響性能と舞台と客席の一体感を誇る大ホール

また、ゼロ歳からのコンサートや来年三月（四日）に開催する、こどもクッキングの日のようなユニークな取組に加え、大阪音楽大学と、ミュージックコミュニケーション専攻学生によるプロデュース公演などで連携を図り、大阪大学は大ホール観戦のデザインに携わるなど活動は幅広い。パレエ教室や合唱団、市民クラブの数が多く、豊中の市民を中心に発表会を開いていた。自身の立った舞台上「大物」が来るといったような感慨を味わっていた。大きく仕掛けて話す表情には自然な笑顔がのぞく。万、フロアの床材に細目調をつけて滑り止めとしたり、階段の段差をすりすりへの注意喚起などといった安全への配慮も忘らな。

センターの（三）の使命（つくる文化芸術の創造）「まじわる多様な文化芸術との交流」「ひろげる地域と一体にならなまらなく、これら使命を果たそうと進捗するセンターの取組とは今後も注目が集まる。教育文化都市豊中、中でも緑と文化芸術ゾーン曾根に相応し、社として早く定着してほしいと願うばかりである。

最後に「お忙しい中取材に、協力賜った西村様、降旗様、ならにセンターの皆さまに深くお礼申し上げます。ありがとうございました。」

魯山 I O S A N



●星岡茶寮の玄関

な土地（約3,000坪）を有する素晴らしい茶庭がありました。

その庭は、造園や、建築に非常に造詣が深く費用も惜しみなく使い、現在のダイエーのある所に「茶寮

曾根の歴史を調べるというところから、星岡茶寮とその運営のアイデアまであった北大路魯山人について、ま

ちづくり研究会では調査研究してまいりました。今では、町が発売され、芦田ヶ池も埋め立てられ、文化芸術センター、アクア文化ホール、中央公民館となりました。その池に臨む、阪急電車沿いに延々と趣のある土堀がめぐられ、広大な

園しゅうくえん」を大正七年に完成させました。その豪邸が空いているのを幸いと、東京で成功した星岡茶寮を開西にも、営業用に改修がなされ、昭和十年、大阪星岡茶寮となり、その支配人、料理長に東京の星岡茶寮で魯山人から厳しい指導を受けていた増山正義さんが抜擢されました。

昭和二十年六月の空襲ではほぼ全焼し幕が下りたわけですが、戦後は規模を縮小し昭和三十三年三月まで営業していたようです。



●昭和21年頃の芦田ヶ池

22号では21号に続き、1月にグランドオープンした文化芸術センターを訪れ取材しました。曾根の、そして、豊中市の文化芸術の「杜」にふさわしい勇姿です。これからもまちづくり研究会では文化芸術スポーツのまちの発展に微力を尽くして行きたいと考えています。また、発足よりの、夢の樹ひろばと夢の樹とおりを結ぶ光のライン構想も継続したいと考えております。今後とも、皆様の御理解と御協力をお願い申し上げます。（編集部）

編集 後記